

デジタル田園都市国家構想交付金事業 検証資料

(デジタル田園都市国家構想交付金 (地方創生推進分))

- ・令和2年度～令和4年度 事業

ビジネスサポートセンター (KoCo-Biz) 創設による「地域活性化」推進計画

P 1～P 2

- ・令和4年度～令和6年度 事業

地域資源の高度化によるブランディング実践事業

P 3～P 5

令和6年3月

広 陵 町

デジタル田園都市国家構想交付金評価シート（令和2年度採択事業）

1 基本事項

事業名	ビジネスサポートセンター（KoCo-Biz）創設による「地域活性化」推進計画															
地方創生	〈基本目標Ⅱ〉地域が活性化するまち															
総合戦略	〈基本的方向1・2・3〉全般															
事業内容・実績																
<p>地域産業の活性化を図るため、町内の中小企業・小規模企業の多くが課題として抱える販路開拓や情報発信などについて、幅広いスキルを有した人材による伴走型支援を実施するビジネスサポートセンターの設立を行うとともに、当センターと連携した支援事業を実施。</p> <p>＜令和4年度実施した具体的事業＞</p> <p>引き続き、広陵町と大和高田市の2拠点での無料ビジネス相談を展開。高いリピート率を維持している。令和4年度は、御所市・葛城市・川西町・三宅町の近隣4市町の事業者も対象に本格的な運用が始まり、ビジネスマッチングやメディア露出増に繋がっている。</p> <p>○実績</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td>・ビジネスサポートセンターの設立・運営及び売上向上支援事業</td> <td style="text-align: right;">10,950,703 円</td> </tr> <tr> <td>・ブランディング支援事業（新商品開発補助金）</td> <td style="text-align: right;">555,400 円</td> </tr> <tr> <td>・産業人材育成事業（農業塾長給与）</td> <td style="text-align: right;">3,000,000 円</td> </tr> <tr> <td>・課題解決に向けたワークショップの開催</td> <td style="text-align: right;">185,600 円</td> </tr> <tr> <td>・販売促進、起業家支援事業（創業促進補助金）</td> <td style="text-align: right;">359,000 円</td> </tr> <tr> <td>（合計）</td> <td style="text-align: right;">15,050,703 円</td> </tr> </table>					・ビジネスサポートセンターの設立・運営及び売上向上支援事業	10,950,703 円	・ブランディング支援事業（新商品開発補助金）	555,400 円	・産業人材育成事業（農業塾長給与）	3,000,000 円	・課題解決に向けたワークショップの開催	185,600 円	・販売促進、起業家支援事業（創業促進補助金）	359,000 円	（合計）	15,050,703 円
・ビジネスサポートセンターの設立・運営及び売上向上支援事業	10,950,703 円															
・ブランディング支援事業（新商品開発補助金）	555,400 円															
・産業人材育成事業（農業塾長給与）	3,000,000 円															
・課題解決に向けたワークショップの開催	185,600 円															
・販売促進、起業家支援事業（創業促進補助金）	359,000 円															
（合計）	15,050,703 円															
事業費 （単位：千円）		R 2	R 3	R 4												
	事業費(収入額)	12,374	16,878	15,051												
	財 源 内 訳	国補助	6,187	8,439	7,526											
		県補助														
		その他														
一般財源		6,187	8,439	7,525												

2 重要業績評価指標（KPI）

指標名	指標値(目標値)	R 3 実績値	R 4 実績値
支援による創業件数	1 件	24 件	13 件
支援による商品開発件数	1 件	88 件	39 件
支援による課題解決件数	3 件	217 件	155 件
ビジネスサポートセンターの相談件数	50 件	213 件	161 件
事業の課題	<p>相談エリアを拡大したことで、相談回数は現状で対応可能な上限に達した。また、引き続き高いリピート率を維持していることから、手厚い伴走支援が展開できている。一方、予約が取りづらい状況が発生しており、現状は1～2ヶ月待ちとなっている。新規の相談者依頼がしづらい状況は解消する必要がある。創業、商品開発、課題解決の各件数も上記の理由による相談事業者数減の影響を受けている。</p> <p>相談の内容面では、多様な悩み事が持ち込まれるようになり、よりきめ細かい対応を行うため、令和4年度中に、ワークフロー型の管理システムを導入した。半年の利用で得た知見を基に、最適化したシステム側の改善も求められる。</p>		

3 項目別評価

評価項目	項目別	総合	評価説明
目指すべき将来像及び課題の設定 KPI 設定の適切性	B	B	KoCo-Biz の守備範囲外の相談や課題に対して、行政や商工会、金融機関を紹介する等、連携プレーが増えている。また、相談からふるさと納税の返礼品が生まれる等の政策間連携の効果が出ている。自立性は低いものの、行政にできない支援を行いつつ、地域間の連携も進んでいる。
自立性	C		
官民協働	A		
政策間連携	A		
地域間連携	A		

4 今後の事業の方向性

今後の方向	事業の方向性に関する考え	
拡充（増）		<p>Biz モデルのサポートが地域に定着し、相談者にとって満足度の高い伴走支援が提供できていると考えられる。相談希望者の増加に対して、待ち時間の長期化等が課題となっていることから、テーマ別の相談対応やシステムの積極活用のための人員を確保し、相談の効率化を図る。</p> <p>また、情報発信において、創業、商品開発、サービス開発に関する実績を打ち出すことで、これらの分野で課題を抱える事業者アプローチする。広陵町と大和高田市、及び周辺地域の事業者が必要な時に相談を受けられる体制づくりを行っていく。</p>
継続 (現行のまま継続)	○	
継続 (事業改善して継続)		
縮小（減）		
廃止		

部	地域振興部	課	産業総合支援課
---	-------	---	---------

デジタル田園都市国家構想交付金評価シート（令和4年度採択事業）

1 基本事項

事業名	地域資源の高度化によるブランディング実践事業
地方創生 総合戦略	〈基本目標Ⅱ〉地域が活性化するまち 〈基本的方向1・2・5〉全般
事業内容・実績	
<p>地域経済の活性化を実現するため、主要産業である靴下製造業の各社の自社ブランド商品を「広陵くつした」として世界へ発信する。また、農業面においても奈良県独自ブランド「古都華」をはじめとした広陵町産イチゴを全国的に知名度の高いものとするため、ブランディング支援事業を実施。</p> <p><令和4年度実施した具体的事業></p> <p>【靴下】</p> <p>当プロジェクトは、2025年に開催される大阪・関西万博を中期的な目標とし、「広陵くつした」を世界へ発信する取り組みを行う。</p> <p>令和4年度は、国内外のファッション業界や小売業界に精通する外部のアドバイザーを招聘し、広陵町靴下組合、商工会、行政に加えて、広陵高田ビジネスサポートセンターセンター長、地域商社なりわいプロジェクトマネージャー、畿央大学、南都キャピタルパートナーズといった、産官学金の多様な参画者によるプロジェクトチームを立ち上げ、靴下事業者に対して綿密なヒアリング・工場見学を行い、町の靴下事業者が抱える課題や現状を把握し、それを踏まえたブランディングの方向性を検討した。</p> <p>靴下という「モノ」から体験を含む「コト」に発想を転換させ、町全体が「足元の聖地」となることで広陵町自体の知名度を向上させる事例作りと発信を行う。また、靴下事業者が、従来のOEM生産に頼る下請け体質から脱却し、自社商品の開発や協業先と対等な立場で交渉できる企画・営業力と、それを支える経営基盤の育成・支援体制の構築を方針として打ち出し、令和5年度は具体化に向けた取り組みを推進している。</p> <p>【イチゴ】</p> <p>イチゴ産地として復活しつつある広陵町の姿を、まずは町民や近隣市町から認知してもらうためのインナープロモーションとして、町内23店舗の飲食店やイチゴ直売所が参加する周遊型グルメイベント「ストロベリータウン広陵2023」を実施。3年連続の開催となり、奈良県下最大の店舗数のイベントに成長。同イベントを見込んだメニュー開発を行う店舗も増えており、情報発信に加えて、地域内での商流づくりにも繋がっている。</p> <p>また、大阪ガスクッキングスクールとコラボ料理教室を開催。平成30年度から継続的に実施することで、募集開始後すぐに満席になる同スクール屈指の人気コンテンツとなった。近隣消費地の富裕層向けPRとして、今後も安定した成果を上げるものと期待できる。</p>	

【ブランド全体】

靴下・イチゴに限定しない町内全事業者に対して、自社ブランドの構築・維持のための取り組みを含めた事業所の実態調査を実施。772者に調査票を郵送し、464者からの回答を得た（回答率60.1%）。令和5年度以降は本アンケートの分析結果を用いた産業振興施策を実施していく。

○実績

- ・ 外部コーディネーター招聘に係る経費 1,000,000 円
- ・ 広陵町産品プロモーション業務 2,000,000 円
(内 400,000 円の年度内未完了部分は令和5年度に繰越)
- ・ 事業所実態調査費 2,750,000 円
- (合計) 5,750,000 円

		R 4	R 5	R 6	
事業費 (単位：千円)	事業費(収入額)	5,750	11,495	17,500	
	財源 内訳	国補助	2,875	5,747.5	8,750
		県補助			
		使用料			
		一般財源	2,875	5,747.5	8,750

2 重要業績評価指標 (KPI)

指標名	指標値(目標値)	R 3 実績値	R 4 実績値
①各種メディアにおける掲載及び放送回数	20回	5回	10回
②コーディネーターとの連携による開発商品数	20件	0件	1件
③「広陵くつした」参画事業者数	15件	10件	13件
④一般社団法人広陵町産業総合振興機構が運営するECサイトへのアクセス数	1,560,000件	1,000件	14,380件
事業の課題	<p>②コーディネーターとの連携による開発商品数 コーディネーターのマッチングによる広陵町内の靴下事業者と連携先の候補は当初目標の5件に製作までは至らなかったが、令和5年度は令和4年度の目標分も含めた商品開発数を達成できる見込みである。</p> <p>④一般社団法人広陵町産業総合振興機構が運営するECサイトのアクセス数 靴下・イチゴ共に、協議の中で最終的な販売窓口はECを主体とすることを確認している。一方で、議論の中で、大きな成果を得るために拙速に始め</p>		

	ることに懐疑的な意見も強い。現在は、魅力的なコンテンツを発信する「メディア型 EC サイト」の構築を主眼に協議を重ねており、当初の計画から大幅に遅れているが、令和 5 年度は SNS 発信とホームページ作りに着手できる見込みである。
--	--

3 項目別評価

評価項目	項目別	総合	評価説明
目指すべき将来像及び課題の設定 KPI 設定の適切性	B	B	<p>EC 集客について、目指すべき将来像を優先した方向性が見直しがあり、KPI④が大きく遅れている。</p> <p>OEM 頼みの靴下産業、農協や市場への出荷が中心だったかつてのイチゴ農家の独自販路開拓を支援する地域商社が本事業を担うことで自立性を担保する計画である。靴下は商品企画の立ち上がりが遅れており、イチゴ販売が先行している。</p> <p>協議体の顔ぶれは多様であり、農業や観光、健康福祉等と連携した取り組みができています。今後、事業者同士ではライバル関係となる近隣産地と連携した情報発信をいかに効果的に図れるかが課題となる。</p>
自立性	B		
官民協働	A		
政策間連携	A		
地域間連携	C		

4 今後の事業の方向性

今後の方向	事業の方向性に関する考え	
拡充 (増)	<p>前年度のヒアリングや協議によって得られた知見に基づく支援事業が実装フェーズに入っている。具体的なトライ・アンド・エラーを繰り返し、より事業者にあった支援となるよう、施策や着地点の見直しを行いながら、事業が前に進み始めた。</p> <p>靴下では、独自商品やインフルエンサーとのコラボ商品づくりに着手しており、具体的な成果が見えることで、独自の靴下作りに乗り出す事業者が増えることも期待している。事業の自走化に向け、地域商社を巻き込んだビジネスモデルの検討も始まっており、今後も継続的な支援を行い、この流れを確かなものにしていく。</p>	
継続 (現行のまま継続)		○
継続 (事業改善して継続)		
縮小 (減)		
廃止		

部	地域振興部	課	産業総合支援課
---	-------	---	---------